



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和5年3月3日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第14号

3月になりました。陽の光が、明るく温かくなっているのを感じるようになりました。春はすぐそこです。

3月1日は、「6年生を送る会」でした。今年度、全校児童が集まったのは初めての集会です。マスク姿ではありますが、日常が少しずつ戻ってきた感覚になります。

集会では、6年生に向けて「ありがとう」「おめでとう」「大すき」という言葉が幾度となく届けられました。在校生は卒業生を思いながら、卒業生は在校生を思いながら発する言葉には、温かみがあります。日常の忙しさの中で、こうした言葉の力を忘れかけていたようです。たくさんの「ありがとう」「大すき」が交わし合える土井首小でありたいと、改めて感じさせられた集会でした。

感染症対応方針について

1月27日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部において、「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更等に関する対応方針」について話し合わせ、次のことが決定されました。

- ・オミクロン株とは大きく病原性が異なる変異株が出現するなどの特段の事情が生じない限り、5月8日から「新型コロナウイルス感染症」に該当しないものとし、5類感染症に位置付ける。
- ・マスクについては、屋内では基本的にマスクの着用を推奨するとしている現在の取扱いを改め、行政が一律にルールとして求めるのではなく、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本として検討する。
- ・マスクの取扱いの検討に関しては感染状況等も踏まえて行い、今後早期に見直し時期を含めその結果を示す。
- ・その際、子どもに関して発育・発達の妨げにならないように配慮が必要であるとの指摘があることに留意する。

これに伴い、先日文書でお知らせしたとおり、長崎県の感染レベルが「1」に引き下げられ、学校における教育活動は、マスクなどの基本的な感染対策を講じることで、ほぼ制限がなくなった状況にあります。

方針は示されましたが、現在学校においては、文部科学省が示す「学校の新しい生活様式 Ver. 8」に従って対応しているところです。学校におけるマスクの着用等については、新年度になり改めてその方針が示されることになっています。

報道等では、「マスク着用を求めない」ことが報じられていますが、方針が示されるまでは現状の対策を継続していくこととします。



【運動というスマートな対抗策】

健康にとって、運動がどれほどプラスに働くかについては、よく耳にするところです。運動は、心を健康にするだけでなく、基本的にすべての知的能力の機能を向上させてと言われています。

ストレスを受け、集中できず、デジタルな情報の洪水におぼれそうになっている今、運動は最もスマートな対抗策と言えるのではないのでしょうか。

約100人の小学5年生に、4週か毎日運動をさせ、実験を始める前と後で一連の心理テストを行った調査があります。この調査から、実験後集中力が増しただけでなく、ひとつのことだけに注意を向けるのも上手になっていたことがわかりました。しかも、情報処理能力まで高まったというのです。(学校の授業においては、この「ひとつのことだけに注意を向ける」場面がおおくあります。)

驚くのは、ほんの少しの運動でという点です。調査で行われた運動は教室内で行われ、毎日たったの6分だったというのです。それでも明らかな成果が表れたのです。

さらなる研究で、「どんな運動が一番良いのか？」という調査が行われました。結果は、「あらゆる運動」が知能に良い効果を与えることがわかりました。散歩、ランニング、筋トレなどなど。どんな運動でも結果の向上が見られたのです。

運動をすることで様々な向上が見られましたが、いちばん改善されたのは知的な処理速度だったそうです。運動をしていると、頭の回転も速くなるというわけです。



《校長室散歩道 R4 版 No. 1 4》

見事な集団生活をするので有名なアリには、胃袋が二つあります。

一つは本物の胃で、自分の身体の栄養を補給するために使います。もう一つは、口と胃の中間にある袋で、別の名前がついていますが、食べたものを入れるのは胃と同じです。

このもう一つの袋の中に入った食べ物は、液体として蓄えられます。これは、栄養液で、お腹を空かせたほかの仲間のために使います。

アリの様子をよく見ていると、一匹がほかの一匹に近づいて、触覚で相手を撫でている場面と出会います。これは、“私のお腹が空いている。もし、あなたが食べ物をもっているなら分けてくれないか”と求めているのです。そこで、撫でられた方は、第二の胃袋に食物を蓄えていたら、この栄養液を吐き出し、相手はこれを口うつしに受け取って飲み込みます。

このようにして、アリは助け合って生活しています。いわば、アリには二つの胃袋があって、一つは自分のために使い、ほかの一つはみんなのために使うのです。

自分が食べたものは、全部自分のものなんだというような自己中心主義ではなく、半分は自分のために、半分は他のアリのために役立っているのです。

この行為は、すべてのアリが元気に生き抜くための、本能的な知恵だと思います。

この点では、アリの方が人間よりも優れているように思えるのです。